

A0-00 発表会予稿の書き方に関する研究

A Study of How to Prepare the Manuscript

00000000 東京 太郎

指導教員 日野 花子 教授

1. はじめに

この文章は、`tmu-sd-cs-resume-20xx.sty` の使用法を説明しています。以下の説明を読み、フォーマットに関しては間違いのない予稿を作成してください。

2. 予稿執筆環境の準備

予稿は Overleaf, 素の L^AT_EX または Microsoft Word で執筆できます。

2.1 Overleaf を利用している場合

予稿は Overleaf のテンプレートから利用できます。以下の URL のテンプレートを使うとワンクリックで予稿の執筆環境の準備ができます。論文は `main.tex`, 参考文献リストは `resume.bib` に書いてください。

<https://www.overleaf.com/latex/templates/tmu-sd-cs-resume/hdydypcwhrdb>

テンプレートを使わないで Overleaf で執筆する場合は、空の新規プロジェクトを立ち上げて、別途送信した予稿用スタイルファイル一式をそのプロジェクトにアップロードしてください。latexmkrc ファイルが重要です。また、Munu の Settings の Compiler を LaTeX に変更してください。

Overleaf では画面右 (プレビュー側) のダウンロードボタンをクリックすることで、PDF 化したものがダウンロードされます。これを提出してください。

2.2 素の TeX を利用している場合

独自の環境で TeX を利用している場合も、配布ファイルに含まれる `tmu-sd-cs-resume-20xx.sty` を用いて執筆してください。論文は `main.tex`, 参考文献リストは `resume.bib` に書いてください。ファイルは UTF-8 でエンコードされています。もしご自身の環境が Shift-JIS の場合は変換してください。

3. 予稿の定型記載事項について

予稿には、フッターに日時・会場等の情報、およびタイトルの先頭に発表番号をつける必要があります。ここでは L^AT_EX での対応方法を説明します。Microsoft Word で作成する場合は、同封の `TMU_SD_CS_RESUME.docx` を使い、元のデザインを崩さないように細心の注意を払って作成してください。記載に必要な情報は L^AT_EX 版と同じですので、

以下を参考にしてください。

L^AT_EX で執筆する場合は、体裁は気にせず、マクロを使って必要な情報を定義してください。具体的にはファイルの先頭部分にある以下の箇所を修正します..

```
\usepackagetmu-sd-cs-resume-20xx
\No{A0-00}
\Jtitle{ 発表会予稿の書き方に関する研究 }
\Etitle{A Study of How to Prepare the Manuscript}
\Author{00000000}{ 首都 太郎 }{ 日野 花子 教授 }
\master % 修士論文発表会の場合
\bachelor % 特別研究発表会の場合
```

`\usepackagetmu-sd-cs-resume` はスタイルファイルを指定する部分です。スタイルファイル中に日時や会場名が含まれています。20xx の部分が今年度のファイルになっているのみ確認してください。

`\No` は発表番号を設定します。これは当日のプログラムに記載されている情報で、教務委員から通知されます。

`\Jtitle` および `\Etitle` は日本語と英語の論文名をそれぞれ設定します。本文を英語で書く場合でも両方を設定してください。卒論の場合は英語のタイトルは必要ありません。

`\Author` は氏名および指導教官を設定します。学習番号、氏名、指導教官の順で記述します。

最後の `\master` および `\bachelor` は、どちらか一方のみを残します。修士論文発表会の場合は `\master` を、特別研究発表会の場合は `\bachelor` を残します。間違えるとフッターの情報が間違ったものになってしまうので、注意しましょう。

4. 本文について

ここでは、本文の記述について説明しています。本文は 2 ページまで記述することができます (修士論文発表会予稿の場合は 4 ページも可)。



図1 雪の日のキャンパス

4.1 文字サイズなど

基本的にはスタイルを変更せずに記載する事を前提としますが、長さや読みやすさなどを考慮し、適宜調整する事は可能とします。ただし、周囲の余白は変えないでください。

4.2 セクションなど

節などは、 \LaTeX のコマンドの $\backslash\text{section}$ や $\backslash\text{subsection}$ を通常の論文と同様に用いて下さい。

4.3 図表など

図や表に関しても特にフォーマットは定めていません。通常の論文と同様に図1のような形式にしてください。

表も同様に表1のように記載してください。

表1 システムデザイン学部の学科

#	学科名
1	情報科学科
2	電子情報システム工学科
3	機械システム工学科
4	航空宇宙システム工学科
5	インダストリアルアート学科

4.4 箇条書き

予稿はページ数が限られていますので、箇条書き等で端的な説明も有効です。

- 一つ目
- 二つ目
- 三つ目

以下のような箇条書きも \LaTeX では簡単に書けます。

日時 一つ目

場所 二つ目

時間 三つ目

4.5 数式

数式は \LaTeX の最も得意とする機能です。論文の文中に $e = mc^2$ のように書く事も出来ますし、以下のように独立して書く事も出来ます。

$$f'(x) = \lim_{x \rightarrow h} \frac{f(x+h) - f(x)}{h}$$

$$e^{i\theta} = \cos(\theta) + i \sin(\theta)$$

$$A = \begin{pmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{2n} \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{pmatrix}$$

4.6 参考文献

参考文献は \LaTeX を使います⁽¹⁾。同封の resume.bib に書き加えるか、自分の bib ファイルと差し替えて使ってください。

5. おわりに

\LaTeX の書き方に関しては Web にたくさん文書が共有されています。その他、わからない事があれば担当の教員まで問い合わせてください。

参考文献

- [1] CODD, E. F. A relational model of data for large shared data banks. *Communications of the ACM* 13, 6 (1970), 377–387.